

I 実践

1 研究主題

思いやりの心をもち、互いを認め、助け合う行動がとれる児童の育成

(1) 主題設定の理由

思いやりの心を実際の言動として表現することを大切にし、今まで以上に互いの人権を尊重し合い、助け合う人間関係を築いていける児童を育てることを目指し、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ア 特別活動や総合的な学習の時間における人権教育の充実
- イ 体験・交流活動ができる場の設定

2 実践内容

(1) 児童会活動の取り組み

ア 挨拶運動

- ・J R C委員会と児童会本部の児童を中心に、毎朝昇降口で挨拶運動を行った。
- ・人とのコミュニケーションのきっかけとなる挨拶を、全校児童に身に付けてほしいと願って活動を続けた。

イ 集会活動

- ・縦割り班活動では外遊びや室内遊びなどを行った。高学年は低学年のことを考えて活動の計画立案をし、実際の活動の場面では全体のことを考えたり、低学年を優しく面倒をみたりしていた。中学年は自分の責任を果たしながら活動を楽しみ、低学年は高学年に支えられながら、ルールを守って楽しく活動していた。
- ・児童集会では、〇×ゲームをして、全校で盛り上がった。楽しく異学年交流活動をする中で、互いを認め、助け合うという体験を積むことができた。

(2) 各学年の取り組み

ア 昔遊び体験【第1学年（生活科）】

地域のお年寄りに昔遊びを教えてもらう活動を通して、自分の祖父母とはまた違った高齢者の人生経験の豊かさに触れ、尊敬の念と親しみを持つことができた。

イ 諏訪小フェスティバル【第2学年（生活科）】

2年生が自分たちで考えた店を開き、1年生を招待して秋の収穫祭を行った。1年生と異学年交流をする中で、下級生を面倒見られる満足感や相手に自分の伝えたいことが伝わったときの喜びなど感じる事ができた。

ウ たんけん・はっけん諏訪じまん【第3学年（総合的な学習の時間）】

諏訪学区内の店を訪ねて仕事内容や仕事への思いをインタビューした。グループ行動をする中で人と協調することの大切さを学び、店の人の話から自分たちが多くの人に支えられて生きていることや人の生き方について学ぶことができた。

エ 梅落とし【第4学年（総合的な学習の時間）】

梅友会の方々と共に、近くの梅林での梅落としの手伝いをした。地域の方々と協力して活動する中で、自分たちが育ってきた地域を守ろうとする気持ちや、地域のために活動することへの喜びを感じることができた。

オ 福祉体験活動【第5学年（総合的な学習の時間）】

車イスやアイマスク体験、高齢者の疑似体験などの活動を行った。障害のある人や高齢者の日常生活の大変さを知り、困っている人にどのような手助けができるかを学び、考えることができた。

カ 大久保交流センター「敬老会」での発表【第5学年（総合的な学習の時間）】

おじいさんやおばあさんに対しての感謝と尊敬の気持ちをメッセージと歌の発表で伝えた。今年は合奏団の発表も加わり、5年生以外の児童も参加することができた。発表を涙を流しながら聞いてくれる姿を見たり、たくさんの温かな拍手をもらったりして、児童は互いの気持ちがつながる瞬間を体験して感動し、気持ちを伝えることの大切さを感じていた。また、お年寄りに渡す励ましの手紙については、全児童で取り組み、児童によっては、手紙を渡した相手から返事をもらうことができ、心を温めることとなった。

<発表内容>

- ・おじいさん・おばあさんから、両親へ繋がった命の先に、今、私たちがいます。
- ・おじいさん・おばあさんとともに、今、生きていることを大変嬉しく思います。
- ・これからもお元気で長生きしてください。そして私たちをずっと見守ってください。

キ 「人にやさしく」の活動【第5学年（総合的な学習の時間）】

「人にやさしく」というテーマで学習する中で、大雨の被害に遭われた常総市の小学校に対して何かできることはないかと考えた。そこで、空き缶を回収し、換金したお金に児童の手紙を添えて常総市に贈った。たくさんの空き缶を回収するため、各学級をまわったり、放送したりして呼びかけを行い、児童が主体となり活動した。

(3) 朝の会・帰りの会での取り組み

学校生活における人権教育は、すべての活動にかかわっているものである。そこで、一日のスタートとゴールである朝の会・帰りの会でのスピーチ（児童）や説話（教師）を中心として、互いを認め合おうとする意識が高まるように努めている。

(4) 集団登下校

本校の特色の一つでもある「集団登下校」では、保護者と地域の方の協力をいただきながら、高学年が班長・副班長として列の先頭と最後尾について、下級生の歩調に合わせながら安全に登下校している。また、毎日元気よく立哨の方々にあいさつを行っている。

3 成果

児童は体験によって人との関わりに関する様々なことに気付くことができた。自分が投げかけた気持ちが相手に伝わり、それを返してもらえたときに互いの中に温かな空気が流れ、それは大変すばらしいものであることを感じることもできた。人に支えられていることを実感した児童は、自ら人のために何かしたいと考えるようになり、進んで活動を始めることができた。そして、人に優しくしたいと考えて活動した児童が相手に喜んでもらったことを感じると、自分もうれしくなるという自分の心の変化に気付くことができた。人が互いの人権を尊重しながら生きる基本的な心のあり様を自然に感じ取ることができたのである。5年生の総合的な学習の時間の活動後の感想から、自分の周りの人に対する見方が変化し、行動の仕方も変わってきていることが分かる。

II 今後の課題

道徳や学級活動の授業、また体験活動で感じた人権意識がさらに豊かに育っていくよう、児童のよい気付きを認め、それが言動となって表れるように促したり、よい気付きの生まれる体験の場を意図的に設けるなどして、継続的な指導を心掛けていきたい。

III 人権コーナー設置の様子

学級では、道徳コーナーなどで自分の感じたことや友達のよさを伝えたりした。児童会とJRC委員会による朝のあいさつ運動、青少年赤十字リーダーシップトレーニングセンターへの参加など、児童の積極的な取り組みを伝えていけるような、学校全体の活動を捉えた人権コーナーを目指していきたい。

青少年赤十字リーダーシップ
トレーニングセンター



あいさつ運動



教室の道徳コーナー

